



自ら動き、感じ、楽しむ  
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 6 令和元年 10 月 30 日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

朝が涼しくなり、木の葉も少しずつ色づき始め、ようやく秋らしくなってきました。今月は登山遠足や散歩などで園外に出かける機会が多くもて、虫や木の実などに興味を向けて自然とのかかわりを楽しむこともできました。また、教育実習や新入園希望者の参観、小学生との交流など様々な人とかかわる機会の多い月でもありました。そのような生活の中での年齢ごとの育ちをお伝えしようと思います。

### 教生先生と一緒にたくさん遊んだよ！(花組)

9月から10月にかけて教育実習生のいる環境の中、子どもたちは自分のしたい遊びを実習生と一緒に楽しんだり、絵の具を使った製作や遊びなど初めてする活動にも意欲的にかかわったりする姿がたくさん見られました。始めは少し様子を見ていた子どもたちも、遊びと一緒に楽しんだり思いを受け止めてもらったりする中で、一緒に過ごすことが楽しくなり、「〇〇先生！こっちに来てよー！」と実習生の名前が生活の中でも聞こえるようになってきました。



実習生にとっても初めてのフィンガーペインティングでは、前日に準備をしながら、絵の具の冷たさや柔らかい感触、手の中で絵の具が混ざり合うおもしろさを子どもたちにも伝えたいと話していました。朝、テラスに広がった紙を見て「何をするんだろう？」と集まってきた子どもたちは、トレイの中に入っている絵の具に興味津々。「今日は自分の手を使って絵の具を触っていいよ。」と教えてもらい、子どもたちも実習生を真似て手の平いっぱい絵の具をつけていきました。手についた絵の具を触って嬉しそうに笑う子どもたちと一緒に、実習生も「気持ちいいね！」と声をかけていました。紙の上に絵の具が広がっていく様子を見て「おー！」と嬉しそうな子どもたち。始めは一色だけ使っていた子どもも、次々に色を変えて混ぜることが楽しくなり、緑や紫など新しい色が増えていきました。「先生、見てみて！手が緑おばけ～」と楽しそうに色が変わったことを話す Y くん、絵の具をずっと混ぜ続けていた A ちゃんは「茶色おばけもいるよー！」と色がたくさん混ざったことが嬉しい様子、「ねえ、こんなところまで絵の具がついちゃったよ～」と腕まで絵の具をつけて喜んでいる N ちゃんもいました。子どもたちにとってはそれぞれに絵の具の感触を両手いっぱい感じたり、思う存分

絵の具を広げたり混ぜたりする楽しさを味わう体験となりました。

あっという間の6週間でしたが、実習生と過ごす中で、自分のしたいことを満足いくまで楽しんだり、たくさん話を聞いてもらったりと心も体も充実した日々となったのではないかと感じています。また、実習生も子どもと日々向き合う中で、身をもって子どもの世界を感じ、学びへとつなげていく機会となったと思います。実習生の学びのためにご協力いただきまして、本当にありがとうございました。(高橋)

### 友達がいるから楽しいね(風組)

教生先生と過ごす最初のお帰りの時、手で自分の名札を隠しながら「僕の名前はなんでしょう。」と教生先生に話しかけたA君。「知ってるよ。A君でしょ。」と教生先生に名前を言い当てられ「えー。なんでだよ。」と嬉しそうに驚くA君。その様子を見ていたBちゃんも「私の名前はなんでしょう。」と質問しました。そこからクラスみんなの名前当てクイズをすることになりました。教生先生が「お名前は〇〇ちゃん。」と言うと「正解。」と少し照れながら、みんな教生先生に名前を当ててもらってとても嬉しそうでした。帰り際、A君が教生先生に「明日も来てね。」とかわいをお願いしていました。

教生先生との製作ではトンボと木の葉をつくりました。トンボは、一人一人がマーブリングで紙に色をつけ、それをはさみで切って羽にし、大きな目もつけました。C君とD君が「この目、かっこいいやろ。怖い顔をしているんだよ。」「ちびっちゃん羽になった。」と言いながらお互いのトンボを見せ合っていたり、Eちゃんがトンボを手を持って保育室内を飛ばしてみたりしていました。それぞれが、自分のトンボにお気に入りのポイントを見つけて大切にしている姿がとてもかわいい風組さんでした。木の葉は、それぞれが紙を好きな大きさに切り、じゃばら折りをしていきました。折り紙が得意なFちゃんが「これ！ボンと一緒にやるんよ。」と楽しそうに折り、隣にいたG君に「こうやってやるんよ。」と教える姿が微笑ましかったです。

最近、園生活のいろいろな場面で子どもたち同士の会話が、これまで以上にたくさん聞こえてくるようになりました。「こうするのはどう?」「いいね。」と話し合ったり「僕は妖怪になるね。」「じゃあ僕はチーター。」とお互いのなりたいものを言いながら変身したり「いらっしゃいませ。ジュースがあります。」「カルピスください。」とジュース屋さんごっこをしたり、友達とたくさん会話しながら遊んでいます。自分の思ったことや感じたことを素直に相手に伝える友達関係ができてきているのだと思うと嬉しくなります。

自分の思いをしっかりと、相手に言えるようになった分「〇〇じゃない人は入れないよ。」とか「あっちに行って。」などと言ってしまふ場面も出てきました。そんな時は、私達保育者も一緒になってゆっくりお互いの話を聞いてみます。すると「入れてって言ってほしかった。」とか「強く触ったから壊れるかと思った。」という本当の思いが出てきます。友達の本当に伝えたかった思いを聞くと、また一緒にくっ



ついて遊んでいます。ぶつかったりくっついていたりしていろいろな経験をしながら、友達と一緒に楽しく遊んでほしいと思います。(中原)

### みんなでやり遂げる楽しさを味わって(星組)

星組は運動会までの生活を通して、チーム対抗やみんなで取り組む活動を楽しむようになってきています。普段の遊びでもいつもの仲良しとだけでなくいろいろな友達とかかわって遊ぶ姿も増えてきて仲間関係が広がっています。そのような時期なので機会を捉えては「年長児の仲間と一緒にがんばろう！」という気持ちを感じられることを大切にしています。

登山遠足では、花組さんを途中まで連れて歩きます。保育者が出発前に「花組が頑張ってるように星組が途中まで連れて行ってあげよう。」と声をかけると、「知っているよ。」と言わんばかりに「車の方を(車道側を)星組が歩く。」「間を開けない。」「走っちゃダメ。花組さんがこける。」などと、これまでに散歩に行く際に保育者が子どもたちに伝えていたことを子ども同士で伝え合う姿が見られました。登山遠足の出発には沢山の保護者が見送られていましたが、星組が花組の手を引く姿は頼もしかったのではないのでしょうか。花組さんも2年後には立派になって手を引く姿になっていることでしょうか。今年は数回、星組が花組を連れて散歩に出かけていましたので、花組もあまり抵抗がなく親しんで会話をしながら歩く姿も見られました。

花組と別れてから星組は歩くペースを上げ、急な坂の登山道を星組だけで進みました。山頂に近くなると大人でも大変な急坂です。事前に下見した教育実習生が「子どもたちが本当に登るんですか?」と言ったぐらいの坂道です。急斜面にはつかんであがるようにロープが張ってあります。「ロープがあるから大丈夫!」と下から登って来る友達に伝える声が聞こえました。急斜面なのにロープが途絶える場所があり、保育者が「ロープがなくなったね。大丈夫?」と後方の子どもに聞くと「手で(地面を)つかんだら大丈夫!」と元気な声が帰ってきました。急斜面が怖くて涙が出てきた友達がいて「～ちゃんががんばれー!」と応援する声も聞かれました。「いつまで続くの?」と保育者に聞く子どももいて「もう少しだよ。」と答えると「もう少ししてよ。がんばれー!」と友達に伝えていました。それでもすぐには着きません。坂道を登りながら「もうすぐ、もうすぐって着かないじゃん。これじゃあ夜になるよ。」と言いながらも元気に登っていきます。いよいよ頂上が見えると「もうすぐ着くよー。がんばれー。」の声が沢山聞かれました。泣いていたお友達も泣きながらトップ集団で登ってきました。登って来る友達の名前を呼んで「がんばれー!」の声が響き渡っていました。みんな無事山頂へ到着しました。



教育実習生とのお別れの日「教生先生と一緒にして楽しかったことは?」の質問で一番多かった答えは、なんと「山登り」でした。みんなで頑張ってる乗り越えた体験が、心に残る思い出になったようです。(高田)

編集担当: 高田